

令和3年度 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 松岡浩司 (基盤整備班主幹 桑原弘信)	内線	4003 (4041)
------	---------------------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着工予定年度	完成予定年度
ほ場整備 事業	いりの 入野2期地区	淡路市入野	13.1億円	—	令和4 (2022)年度	令和10 (2028)年度

事業目的			事業内容			
本地区は、淡路市の南西部に位置する中山間地域で、農家の減少・高齢化が進む中、農業生産の効率性を高め、新たな担い手の育成と農業生産の拡大を図るため、農地の区画整理を行う。			・区画整理 31.3ha ・事業主体 兵庫県 [負担割合 国 :55.0%、 県 :27.5% 市 :10.0%、 地元: 7.5% ]			

評価視点	評価結果の説明
------	---------

(1) 必要性	ほ場は狭小・不整形で農道は狭く、大型機械化による効率的な営農を行うためには、区画形状の改良は不可欠である。また、たまねぎ等、高収益作物の生産拡大を計画しており、ほ場の排水性を改善するためにもほ場整備が必要である。	
	現状	計画
ほ場条件	区画：平均7a（水田） 用排水路：土水路 道路：幅員2～3m	区画：標準30a（輪換田） 用水路：パイプライン 排水路：コンクリート水路 道路：幅員4m
経営体	個人47戸（29.9ha） 〔担い手〕 有限会社：1法人（4.1ha）	個人6戸（4.2ha） 〔担い手〕 農事組合法人：1法人（18.5ha） 有限会社：1法人（6.8ha） 個人：1戸（1.8ha）※認定農業者
農業生産 (主なもの)	水稲：11.4ha たまねぎ：3.0ha 短茎小ぎく：0.2ha	水稲：21.1ha たまねぎ：9.2ha 短茎小ぎく：1.2ha 小麦：1.0ha

(2) 有効性・効率性	地域では事業実施に向けて協議・検討を重ねており、その結果、事業を契機に集落営農法人や若手の新規就農者が新たな担い手として地区の農業を牽引していくこととなった。また小菊の生産拡大に向けた地域を上げた取組も計画されており、農業生産の拡大を基軸とした地域全体の活性化が期待される。 費用便益比 B/C=1.28 (1,599百万円/1,240百万円)
-------------	---

(執行環境状況)	主な効果項目	年効果額	説明
	作物生産効果 (農作物生産量の増減)	11,567千円	水稲 57.3t→109.4t(90%増) たまねぎ 163.4t→501.2t(207%増) 短茎小ぎく 114千本→684千本(500%増)
	品質向上効果 (品質向上による収益の増)	1,259千円	たまねぎ等
	営農経費節減効果 (営農経費の増減)	71,296千円	10a当たりの作業時間 水稲 52hr→25hr(52%減) たまねぎ 171hr→94hr(45%減)
	維持管理費節減効果 (施設の維持管理費の増減)	△2,017千円	施設整備による水路等の管理費増

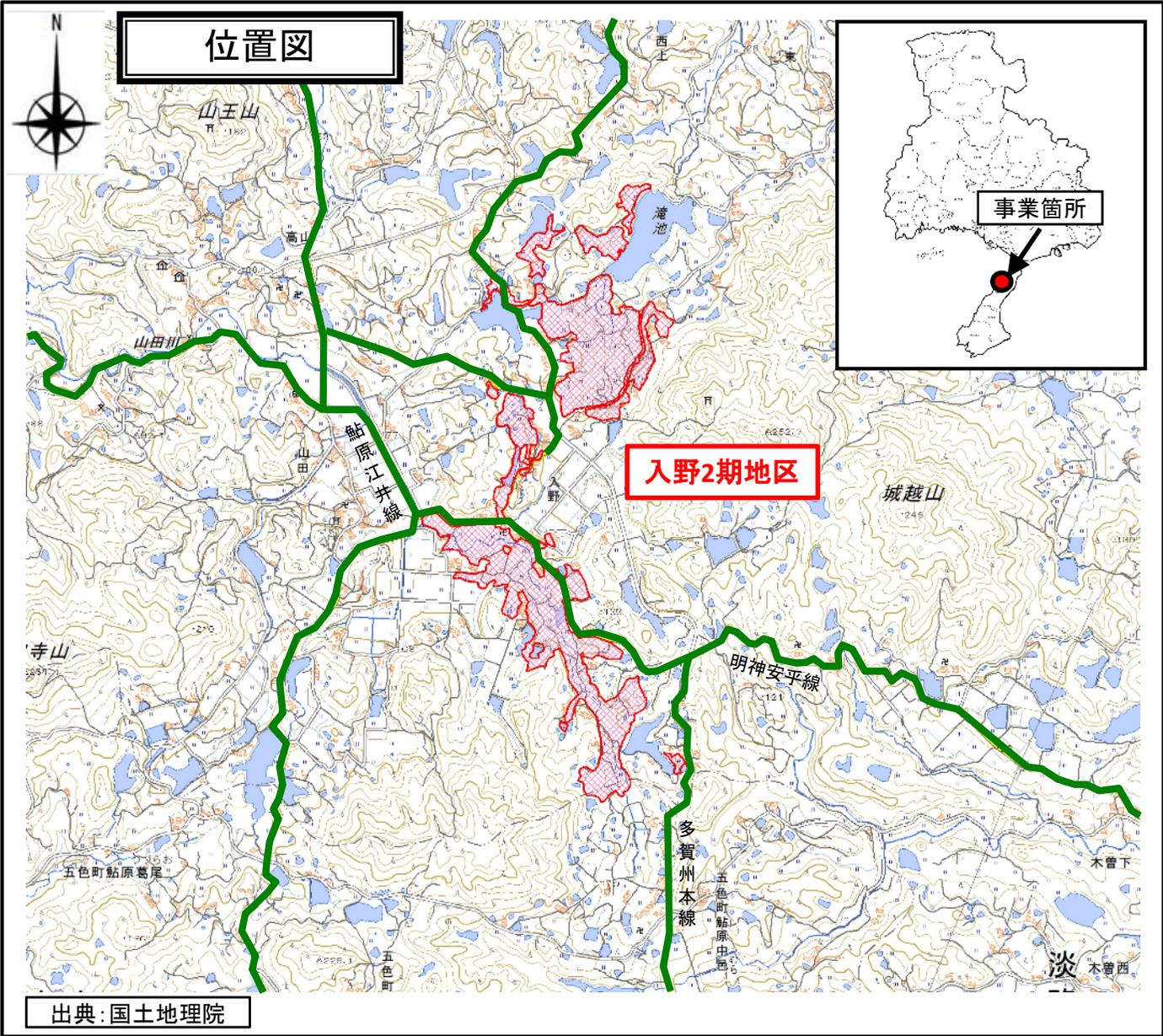
合意形成はできており（事前同意率100%）、担い手の営農意欲も高まっている。

(3) 環境適合性	専門家の意見を踏まえ、植物に対しては現況法面の表土移植により法面の植物を保全する。また、両生類及び魚類に対しては施工時の一時避難並びに棲息空間確保のため排水路の一部によどみや水路より這い上がれる構造を創設するなどの対策を講じる。
-----------	--

(4) 優先性	農業就業人口の高齢化率が75%（県平均67%）と高齢化が進行しており、早急な対策が必要である。
---------	---

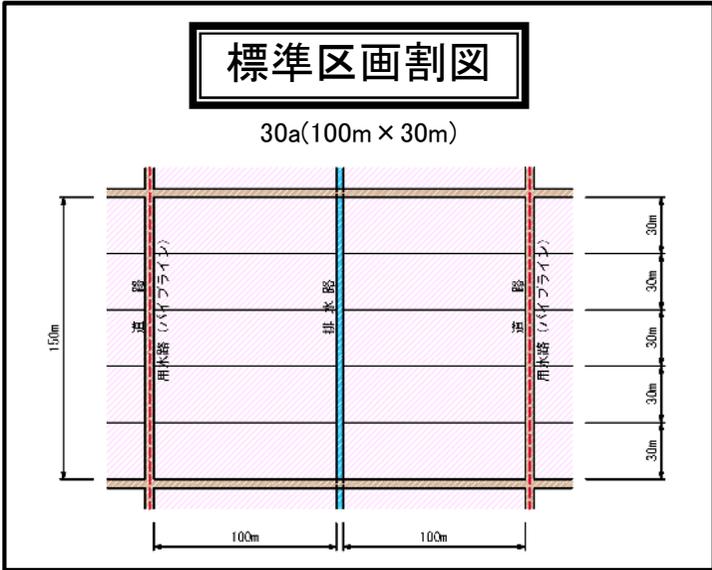
【事後評価】 対象・対象外	本地区の近隣で実施しているほ場整備（南あわじ市国衙地区）がR8以降に事後評価をする予定であるため、本地区については事後評価の対象外とする。
------------------	---

いりの  
ほ場整備事業 入野2期地区



**事業概要**

事業概要 : 区画整理 31.3ha (関係戸数47戸)  
 所在地 : 淡路市入野  
 事業期間 : R4~R10  
 総事業費 : 13.1億円  
 事業主体 : 県  
 費用便益比B/C : 1.28



※文献等により本地区に埋蔵文化財包蔵地が存在することを確認しており、事業費の算定にあたっては、その影響を考慮している。

# 平面図

**事業の必要性等：**  
 ほ場は狭小・不整形で農道は狭く、大型機械化による効率的な営農を行うためには、区画形状の改良は不可欠である。また、たまねぎ等、高収益作物の生産拡大を計画しており、ほ場の排水性を改善するためにもほ場整備が必要である。



## 1 スケジュール

工種	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
実施設計							
区画整理工							
その他(換地)							

凡	例
	水田
	畑
	非農用地
	暗渠排水
	支線道路 (w=5.0m)
	支線道路 (w=4.0m)
	支線排水路
	県道
	2級市道
	河川



④狭い農道



③排水性の低いほ場



①狭小・不整形な区画



②管理労力のかかる土水路

	現状	計画
ほ場条件	区画：平均7a (水田) 用排水路：土水路 道路：幅員2~3m	区画：標準30a (輪換田) 用水路：パイプライン 排水路：コンクリート水路 道路：幅員4m
経営体	個人47戸 (29.9ha) 〔担い手〕 有限会社：1法人 (4.1ha)	個人6戸 (4.2ha) 〔担い手〕 農事組合法人：1法人 (18.5ha) 有限会社：1法人 (6.8ha) 個人：1戸 (1.8ha) ※認定農業者
農業生産 (主なもの)	水稲：11.4ha たまねぎ：3.0ha 短茎小ぎく：0.2ha	水稲：21.1ha たまねぎ：9.2ha 短茎小ぎく：1.2ha 小麦：1.0ha

# 事業の有効性・効率性

当地域では、事業実施に向けて協議・検討を重ねており、その結果、ほ場整備事業を実施し、これを契機に、集落営農組織を法人化して経営拡大することとした。本事業により農業生産が効率化することにより、地元にて就農した若手農業者と、建設会社が設立した農業会社も経営規模拡大を計画している。

この3者が新たな担い手として地区の農業を牽引していく。

また、地域の特産品である小菊の生産拡大に向けて、地域を上げた取組も計画されており、農業生産の拡大を基軸とした地域全体の活力アップが期待される。

集落営農組織による  
小菊の試験栽培



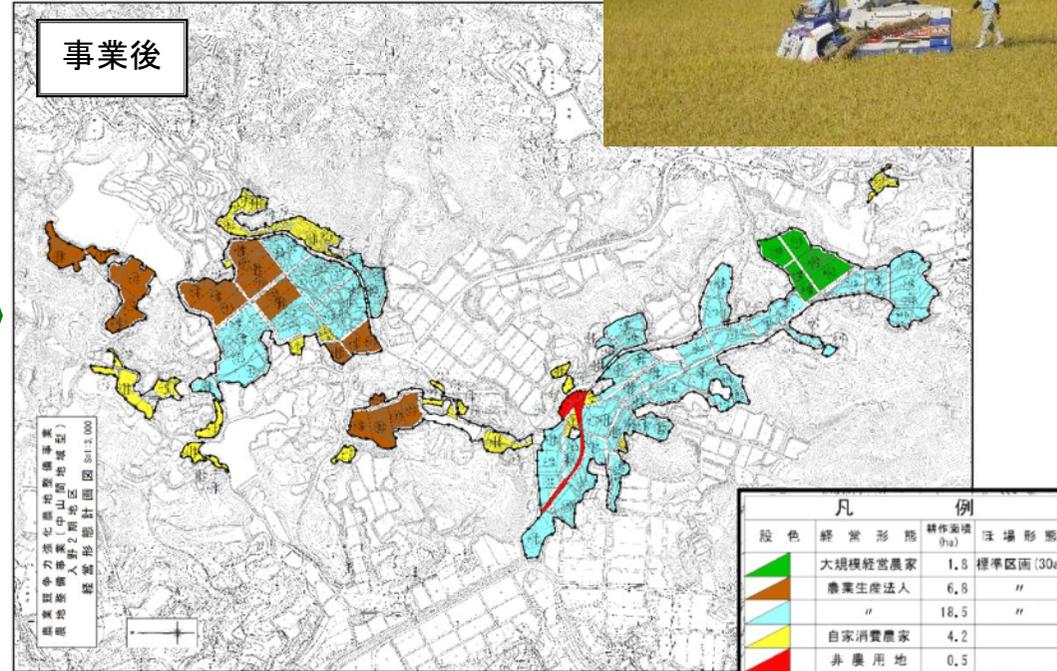
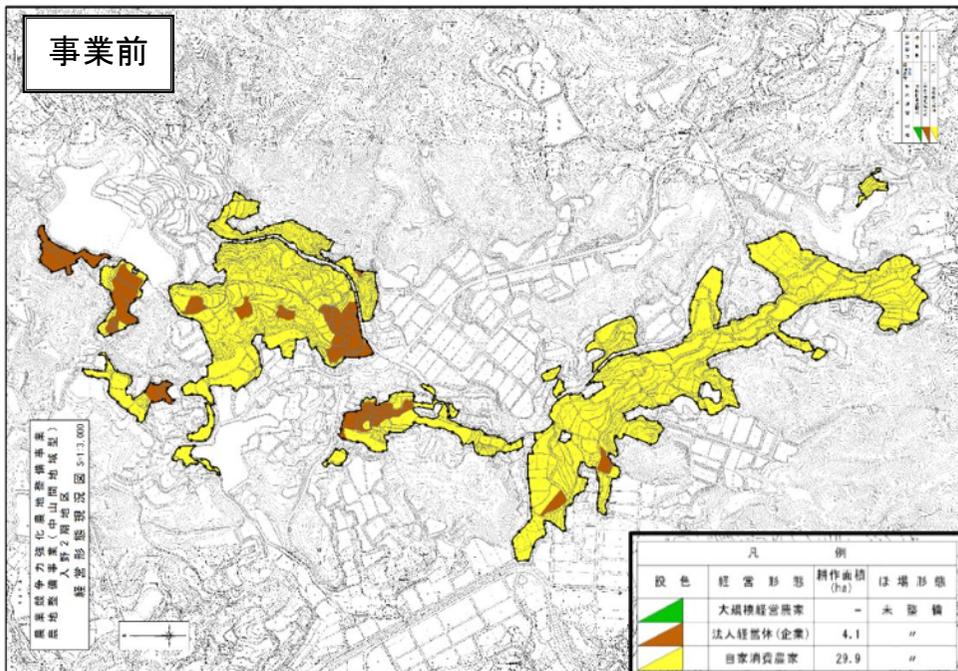
主たる担い手農業者

	概要	経営農地面積 (現況⇒計画)
集落営農法人 (農事組合法人)	H24に機械共同利用を目的に地元農家40戸により設立。 R4.12に農事組合法人として法人化の予定	0ha⇒18.5ha
企業出資農業法人 (有限会社)	地元建設会社が出資し、H27.10に設立 H28.9に認定農業者として認定 [たまねぎや小麦を生産]	4.1ha⇒6.8ha
若手新規就農者	H28に就農 R4.2に認定農業者として認定申請予定 [主食用米と玉ねぎを生産]	0.6ha⇒1.8ha

大型機械による米の収穫作業(イメージ写真)



担い手による農地の利用集積計画



## (1)費用対効果

### ①便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
食料の安定供給の確保に関する効果	① 営農経費の節減に関する効果 区画拡大及び道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果
	② 作物の生産増に関する効果 ほ場整備により農業機械導入が可能になることや用排水路改良による反収の増加に伴い、作付面積や収量が増加する効果
	③ 作物の品質向上に関する効果 本事業の実施により農道が整備され、たまねぎ等の作物における運搬時の荷痛みが防止されることにより品質が維持される効果
	④ 維持管理費の節減に関する効果 ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果
農業の持続的発展に関する効果	⑤ 耕作放棄の防止に関する効果 ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果
農村の振興に関する効果	⑥ 非農用地等の創設に関する効果 区画整理及び換地による公共用地創設に伴い、公共用地を取得する用地買収事務に係る経費が節減される効果
	⑦ 地籍確定効果 区画整理の実施により区画の整形や確定測量が行われることで地籍が明確になる効果
その他の効果	⑧ 国産農産物の安定供給に関する効果 国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果

②費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用	事業費	維持管理費	
				(百万円)	(百万円)	(百万円)	
ほ場整備	農地整備事業	①作物生産効果	207	1,240	1,044	197	1.28
		②品質向上効果	20				
		③営農経費削減効果	1,273				
		④維持管費節減効果	△36				
		⑤耕作放棄防止効果	3				
		⑥非農用地等創設効果	7				
		⑦地籍確定効果	21				
		⑧国産農産物安定供給効果	104				
		計	1,599				

## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
多面的機能の発揮に関する効果	①地下水のかん養 水田が水田として利用され湛水されることで用水の一部が地下に浸透し、地下水のかん養を促進する効果	○	区画整理
	②農地や農村における災害の抑制 用水路と排水路の分離、法勾配の改善（緩傾斜化）、畦畔の強化、ほ場の湛水量の増などが図られ、洪水の防止・軽減により農地・農業用施設、農村の災害を抑制する効果	○	区画整理 用排水路整備
農業の持続的発展に関する効果	③農村の活性化 農作業の省力化や生産拡大により、農業所得の向上や若い担い手の定着が促進され、農村が活性化する効果	○	区画整理
農村の振興に関する効果	④地域交通の利便性向上 農道の整備により安全に通行でき、また緊急車両の通行が可能となることにより地域の利便性と安全率が向上する効果	○	農道整備

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域で話し合いを重ね、地域の農地を守るため、また、生活環境を改善するために不可欠な事業であることから、早期の事業実施について市へ強い要望が出されている。（事前同意率100%）</li> <li>▶ 農道の拡幅、用水路の管路化及び自動給水システムの導入、排水路の完備等による農作業の効率化及び省力化に大きく期待している。</li> <li>▶ 農作業を効率化し、農業法人に農地の大半を集積し、地区全体で野菜等の生産拡大を進めたい。</li> </ul>
-------	--